



人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和6年11月25日

No.9



2学期の人権学習のテーマは「障がいのある人の人権」です。各学年の学習と考えたことを紹介します。(文章は一部編集しています)



1年生では、障がいのある人が日常生活を送るには依然として様々な制限や4種類(物理的・制度・情報・意識上)のバリアがあることを知り、「誰もが困り感を持たずに生活を送るためにできることは何か」について考えました。

今回4つのバリアの特徴やそれぞれの具体例を学ぶことができた。気付かないうちに障がいのある人に対して偏見を持っていたり、普段自分たちが当たり前のように思っていたりすることも障がいのある人にとっては不十分な環境であることが分かった。差別や偏見をなくすには、自分たちがどのように障がいのある人と向き合っていくかが大切だと思う。

社会には気付かないだけで色々なバリアがあることが分かった。

障がいのない私たちも周りの環境によってできることが変わってくるように、障がいのある人も環境が変わるとできることが増えていくことが分かった。この考え方を「社会モデル」ということも分かった。

今回の学習で、障がいのある人は「困っている」と思い込んではいけないのだと思った。思い込みから失礼なことをしてしまうかもしれないから。だから、もっと障がいのある人たちについて、僕たちがもっとよく知ることが大切だと思った。

思い込みからバリアを作ってしまうことがあるので、それをなくしたい。また、障がいのない人でもバリアはあるので、誰もが協力し合ってより良い世の中にしたい。

動画を観て、今まであまり考えたことがなかったことに気付くことができて、いろいろな人がいることを学んだ。また、バリアフリーでもバリアになっていることがあることを知り、もっと障がいのある人たちのことを考えて誰もが同じように暮らせる工夫ができたらいいなと思った。

もっと自分たちができることはたくさんあると思うし、偏見や先入観をなくしていくことでより過ごしやすい世の中になると思った。

今回の授業で、障がいのある人たちが変わる「医学モデル」ではなく、周囲が柔軟な対応をして障壁を取り除く「社会モデル」が大切だと思った。

私は今まで障がいに対する考え方には医学モデルだけかと思っていた。でも周りの環境で変われる社会モデルを今回学び、私は社会モデルのような障がいのある方々に過ごしやすい雰囲気づくりをしたい。でも具体的に何をどうすればいいかわからない。だからもっと人権の学習をしたい。

身の周りには、特に意識上のバリアが多くあると思った。制度のバリアの例を考えていたときに、障がいのない私たちにとっては普段気にしないことがたくさんあったから、一人ひとり意識することが大切だと思った。

学んだ4つのバリアがあることで、たくさんの方が困っているのだなと思った。障がいのある人たちの立場になってみるととても困るし、今の生活ができないと思った。たくさんの方が今の社会にある中で、障がいのある人たちに寄り添い、よりよい解決法をみんなで見つけることが大切だと思った。みんなで考えるときに、障がいのある人たちの意見も聞き、誰もが住みやすい社会を作ることが一番大切だと思った。

意識上のバリア、制度のバリア、物理的なバリア、情報面のバリアがどういうものなのか学ぶことができたし、この4つのバリアは障がいのある人だけでなく障がいのない人でもバリアになることが分かった。

私は今まで障がいのある人たちが何に不便さを感じているのか、どのような気持ちなのかということはあまり考えたことがなかったので、人権学習で学ぶことができてよかった。

私たちにできることは、先入観や思い込みをせず、気持ちを考えた行動をし、障がいのある人たちが困っている時に手を貸すことだと思った。



～1年生の学習内容～

障がいとは、本人の医学的な心身の機能の障がいを指すものではなく、社会における様々な障壁(バリア)との相互作用によって生じるものである。

<4つのバリア>

◆物理的バリア…道路・建物・住宅・駅などにおいて物理的に生じるバリア。

(例) 車いすの方が利用できないトイレ、乗降口に段差のあるバス、駅の狭い改札口やホームまでの階段

◆制度的なバリア…教育や就労、地域での制度上の制約により生じるバリア。

(例) 盲導犬を連れていくと利用することができないレストラン、幼児連れお断りのお店

◆情報面のバリア…音声情報や文字情報など、必要不可欠な情報が提供されていないことで生じるバリア。

(例) イベントなどで手話通訳や託児がない、駅・車内におけるアナウンス情報がわからない

◆意識上(心)のバリア…障がいのある方に対する差別や偏見、障がいに対する無理解により生じるバリア。

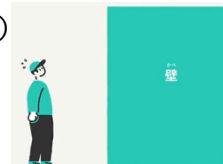
(例) 点字ブロック上の看板や自転車、高齢者や障がいのある方を見て「かわいそう」と思うしてしまうこと

<障がいの捉え方>

◆医学(個人)モデル…「障がい」を個人の心身機能によるものとし、個人的な問題として捉える考え方

◆社会モデル…「障がい」は社会(モノ・環境・人的環境等)と個人の心身機能の障がいがいまって作り出されているものであり、その障壁(バリア)を取り除くのは社会の責務であるとし、社会全体の問題として捉える考え方。

(例) 高い壁では二階に上がりません。→障がいがある



ハシゴがあれば二階に上がれる。→障がい解消

障がいのない方も周囲の環境でできることとできないことが変わってくる。